

欧文書体の種類

■ ローマン体（セリフ体）

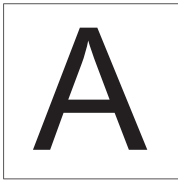


古代ローマのトラヤヌス皇帝の戦勝記念碑に刻まれた書体をルーツにもっていて、セリフがついているもののことをいいます。セリフをつけることによって、各文字に共通性が生まれ、統一感が出ています。

ローマン体のフォント

IT Literacy	Times New Roman	英国の新聞社用の書体としてつくられたもの。
IT Literacy	Century	日本の書籍などでは馴染み深いです。
IT Literacy	Georgia	画面上の読みやすさを目指してつくられたもの。
IT Literacy	Courier	タイプライターを起源とする等幅フォント。

■ サンセリフ体



「サンセリフ」とは「セリフがない」という意味です。19世紀になってつくられ、見出しや広告などによく使われています。20世紀になって、色々な種類のサンセリフ体がデザインされました。

サンセリフ体のフォント

IT Literacy	Arial	よく使われているサンセリフ体。
IT Literacy	Franklin Gothic	やや横幅のせまい字形。

■ スクリプト体



ペンで手書きした雰囲気のある文字を様式化したものです。

ファミリー

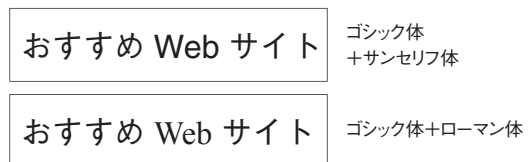
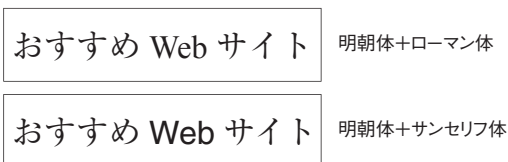
同じデザイン方針で、文字の太さ、文字幅などにバリエーションがある複数の書体のことをファミリーといいます。すべての書体がファミリーをもっているわけではありません。また、和文書体のファミリーは、一般的には太さの違うものしかありません。



Wordなどのソフトの機能で太字や斜体にしたものは、機械的に均一に処理されます。ファミリーがあればファミリーを用いた方がよいでしょう。

和文書体と欧文書体の組み合わせ

和文と欧文を同じ文中に使う場合には、明朝体とローマン体、ゴシック体とサンセリフ体を組み合わせることが多く、調和がとりやすいです。比べてみましょう。



Lesson 9

新聞や広告から欧文書体を探して、大文字・小文字・数字それぞれについてローマン体・サンセリフ体・その他に分類し、特徴を確認してみましょう。